**曹洞宗大本山總持寺・ニコニコ法話　　　　　　　　　　　　　　　　　　 令和6年9月**

 **パリのZEN**

**本山布教教化部長 花和浩明師**

この夏日本中が稀に見る猛暑に見舞われましたが、パリオリンピックでの我が国選手団の活躍が、多くの国民の心に爽やかな風を吹き込んでくれました。

たくさんの名勝負が演じられましたが、そんな中私は柔道の団体戦決勝にくぎ付けになりました。日本はあと一勝で金メダルに手が届くところでしたが、フランスに3連敗し、惜しくも優勝を逃してしまいました。最終戦の劇的な演出効果もあり、会場は割れんばかりの歓声に包まれました。最後は、勝利したフランス選手たちにも、惜しくも敗れた日本選手たちにも会場からは惜しみない拍手が送られました。

今回柔道についてはフランス選手の活躍が目立ちましたが、その理由は開催国というだけではなく、フランスの柔道人口が日本の4倍以上もあるというのがその大きな理由だそうです。

柔道はご承知の通り、日本発祥の競技です。今では世界中に競技人口は広がっていますが、圧倒的に多いのがフランスです。柔道の礼節を大切にする姿勢が、子供への教育にも適しているというのが人気の大きな要因だということです。

日本文化の海外での普及というと、「禅」もその一つではないでしょうか、フランスでは、「ZEN」は「JUDO」と同じく誰もが知る言葉となっているようです。

「ＺＥＮ」がフランスに広まったのには、ある方が大きな役割を果たしています。その方は「パリの禅僧」としても知られる弟子丸泰仙老師です。老師は長年勤めた会社を辞めてから本格的に禅を修行し、53歳の時一念発起して禅の布教のために単身ヨーロッパに渡りました。そしてパリを拠点として禅の布教に専心されたのです。禅不毛の地で、さまざまな工夫によって困難を乗り越えていった様子が、今日伝わっています。レストランを借りてのゼスチャーだけの禅の指導は有名な話です。

やがて老師の情熱は実り、「ZEN」がパリを中心にフランスで一大ブームとなりました。そして、今日では禅寺が建立され、多くのフランス人が本格的に禅に親しむ時代を迎えています。

「JUDO」も「ZEN」も我が国の精神文化が、欧米の精神文化に大きな影響を与えた顕著な一例といえます。